

平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 22 日

評価対象事業		評価者		文化人権推進課担当課長 高橋 謙司	
経企-27	実施事業	文学館管理運営事業	☒ 自治事務	主管課	文化人権推進課
	まち・ひと・しごと		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	観覧や教養及び調査・研究に資するため。
効果	鎌倉ゆかりの文学及び文学者に対する理解を深めることができる。

2 平成28年度に実施した事業の概要

- ・指定管理者制度により、文学館の効率的な管理運営を行った。
- ・指定管理者との役割分担に応じた施設の維持管理を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度決算	28年度決算	データ区分	29年度当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口	177,243人	人 口	176,466人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	80,676世帯	世 帯 数	81,150世帯	
	事業の対象者数	112,066人	事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	72,158	当初予算(千円)	83,507	
	国県支出金		国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他	25	その他	21	
	一般財源	72,133	一般財源	83,486	
	人員配置数	0.7	人員配置数	0.7	
事業経費運営	人件費(千円)	5,318	人件費(千円)	5,564	
	総事業費(千円)	77,476	総事業費(千円)	89,071	
	市民1人当りの経費(円)	437	市民1人当りの経費(円)	505	
	対象者1人当りの経費(円)	691			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	1. ある
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である
		協働実施済の場合のパートナー 市民団体（不特定）

事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他	事業へ統合
予算規模の方向性	☐ A: 予算規模を拡大する ☒ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	引き続き、指定管理者と連携しながら効率的な管理運営を行うとともに、緊急度の高い箇所の修繕を計画的に行っていく。

総評(評価に対する考え方、根拠等)	効率性については、修繕費について削減の可能性があるので「事業費の削減余地」は「ある」とした。 文学館は本市ゆかりの文学及び文学者の功績を市民等に発信する場であり、本市の文化振興において重要な役割を担っている。本市景観重要建築物である本館やパラ園を有する広い庭園等、魅力あふれる施設であり、毎年度10万人を超える来館者数を確保している。このため、妥当性については「市民ニーズ」を「変わらずにある」とした。また、有効性については「事業の成果」を「概ね出ているが、更なる努力は必要である」とした。 市民団体等との協働事業は指定管理者によって既に行われているが、今後も地域文化振興に寄与するため、地域イベントとの連携や庭園を活用した協働企画等を指定管理者と協議し、実施していく。 開館から30年以上経過し、施設・設備の老朽化が顕著であることから来館者の安全性を考慮し、緊急度の高い箇所から随時修繕を行っている。引き続き、指定管理者と協議し、計画的に修繕を行っていく。
-------------------	---

